

さ かん じ つ ぎ しゅうりょう し けん じっ しゅうりょう
左官実技修了試験実施要領

いっばんようこう

1. 一般要項

しゅうりょうしけん じつぎ さぎょう じゅけんしゃ い か てん ちゅうい
修了試験（実技）における作業において、受検者は以下の点を注意する。

あんぜんぐつ しょう あんぜんたい へる め っ と ちゃくよう
安全靴を使用し、安全帯・ヘルメットを着用する。

しけんちゅう し ご つつしむ
試験中は私語を慎む。

してい こうぐいがい もち こ ま ず た だ し く どう ぐ しょう
指定された工具以外は持ち込まず、正しく道具を使用する。

た じゅけんしゃ こうぐどう か し か り きんし
他の受検者と工具等の貸し借りは禁止する。

しけんかん せつめい き く
試験官の説明をよく聞く。

しきゅう ざいりょう かだいとう くるい しらべる くるい おもわれる
支給された材料や架台等に狂いがなければ調べる。狂いがあると思われる

ばあい たんとう しけんかん もうしでる
場合は 担当の試験官に申し出る。

た じゅけんしゃ そうだん さぎょう
他の受検者と相談をして作業をしてはならない。

じかかない し あ げ る ひょうじゅんじかん こ え て さぎょう おこなったばあい ちょうか
時間内に仕上げる。なお 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過

じかん おうじてげんでん う ち き り じかんご しっかく
時間に応じて減点する。打ち切り時間後は、失格とする。

さぎょう しゅうりょう た だ ち じゅこうばんごうひょう しけんかん ていしゅつ
作業が終了したら、直ちに受講番号票を試験官に提出する。

さぎょう しけんかん し じ したがつて してい ばしょ おこなう
作業は、試験官の指示に従って、指定された場所で行う。

ざいりょう ほきゅう きょしゅ ほじょいん う け と る
材料の補給は、拳手をして、補助員から受け取る。

か だ い さぎょうしゅうりょうご さくひん て ふ れ て
課題の作業終了後の作品には手を触れてはいけない。

さぎょうちゅう ちゅうい
作業中は、けがのないように注意をする。

さぎょうちゅう た じゅけんせい めいわく
作業中は、他の受検生に迷惑をかけないようにする。

せいりせいとん つねにこころがける
整理整頓を常に心がける。

さぎょうしゅうりょうじてん しょうこうぐ ざんざいりょう あとしまつ おこなったうえ じゅこう
作業終了時点において、使用工具・残材料の後始末を行った上で受講

ばんごうひょう しけんかん ていしゅつご しけんかいじょう たいじょう そのご しけんかいじょう
番号票を試験官に提出後、試験会場を退場し、その後は試験会場には

さいにゅうじょう
再入場できない。

もんだい じぜん か き こ み しけんちゅう た ようし
この問題には、事前には書き込みをしてはいけません。試験中には他の用紙

め も さんこうしょ み て
にメモをしたものや参考書を見てはいけません。



じつぎしけんようこう
 2. 実技試験要項

しょうこうぐ どうぐとう
 (1) 使用工具、道具等

しょうこうぐ どうぐ い か ひょう
 使用工具、道具、は以下の表1による。

ひょう さかんじつぎしけんしょうこうぐなどいちらんひょう 表 1 左官実技試験使用工具等 一覧表		
こうぐめい 工具名	すんぼう きかく 寸法・規格	すうりょう 数量
れんが レンガごて	ごう 1号	1
こていた ごてなかくびこて ぬりごて中首鏝	150 mm ~ 210 mm	1
きりつけごて	1 2 0 mm	1
きごて	180 ~ 210 mm	1
ちりぼうき		1
あら 洗いばけ		1
すけーる スケール、さしがね		1
すみつぼ	さかんよう 左官用	1
すみさし	たけせい 竹製	1
さしがね	ステンレス製 ^{せい} 650 * 450 mm	1
こんべっくすけーる コンベックスケール	25 mm * 5m	1
ばけつ バケツ	しょう 小	2
ぞうきん		1

びにーるしーと ビニールシート	1m × 1m	1
えんぴつ けしごむ じさん 鉛筆・消しゴムは持参		



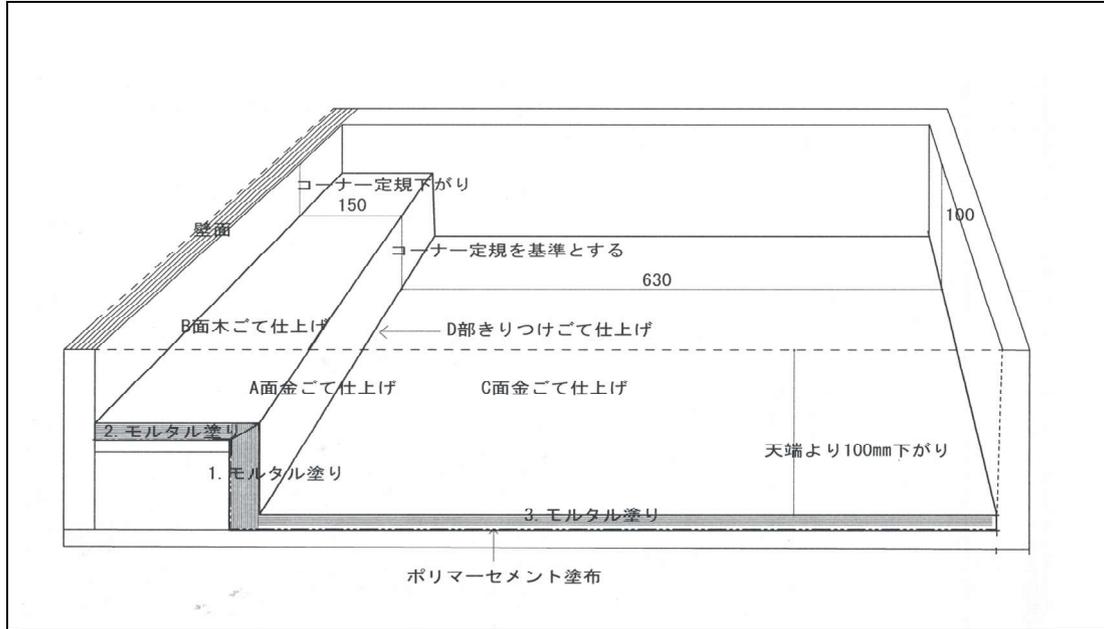
- しきゅうざいりょう
- (2) 支給材料
- しきゅうざいりょう らす したじょうちようごうけいりょうせめんともるたる やく L らす
 支給材料はラス下地用既調合軽量セメントモルタルを約 6 Lとする。ラス
 したじょうちようごうけいりょうせめんともるたる ひんしつ きかく きじゅん み
 下地用調合軽量セメントモルタルの品質は、JASS 15 M102 の規格の基準を満たした
 ものとする。

- じつぎしゅうりょうしけんかだいず
- (3) 実技修了試験課題図
- じつぎしゅうりょうしけん かだいず すんぼう きじゅん
 実技修了試験は課題図1の寸法を基準とする。

かだいず

課題図 1

Aめん ぬりあつ きてん きわくてんば こーなーじょうぎ てんば
A面の塗り厚の基点は、木枠天端よりコーナー定木の天端とする。
Cめん ぬりあつ きてん きわくてんば 100みりめーとる
C面の塗り厚の基点は、木枠天端より100 mm 下がりの高さとする。



(4) 作業時間

さぎょうじかん ひょうじゅんじかん 1じかんいなし うちきりじかん 1じかん30ぶん せいげんじかんど
作業時間は標準時間を1時間以内とし打切り時間1時間30分とする。制限時間後
1ぶんかん 1てん げんてん 30ぶんけいか げんてん30てん いご
に、1分間につき1点の減点とし30分経過したならば、減点30点とし、それ以後の
じゅけんしゃ しっかく
受検者は失格とする。

(5) 作業条件

いか さぎょうじょうけん さぎょうこうてい しめす
以下の作業条件は作業工程を示すものである。
かだいず しゃせんぶぶん たちあがり かべ そうてい めん せこう
課題図の斜線部分の立ち上がりは、壁があるものと想定し、その面からは施工し
ないこと。
Aめん BめんおよびCめん しあげすみだし おこなう AめんおよびBめん こーなーじょうぎ
A面、B面及びC面の仕上げ墨出しを行うこと。A面及びB面は、コーナー定規
にあわせること。
A-Cめん みずしつ
A～C面に、かるく水湿しめをしなさい。
Aめん もるたる きん すいちよく しあげる Aめんしあがりめん
A面をモルタルを金こてで垂直に仕上げること。なお、A面仕上がり面は、
こーなーじょうぎ あわせる
コーナー定規に合わせること。

しゅういきわくぶぶん もるたるしあげ せつするぶぶん しゅういきわく せいそう Aめん せいそう
周囲木枠部分とモルタル仕上げの接する部分の周囲木枠を清掃し、A面の清掃あ

かな しゅうせい
とを金ごてで修正すること。

Bめん もるたる き へいたん しあげる

B面をモルタルを木こてで平坦に仕上げること。

しあげたAめん Cめん しあげる すいへいすみ れべる だす

仕上げたA面にC面を仕上げるため水平墨（レベル）を出すこと。

Cめん もるたるかな へいたん しあげる しゅういきわくてんば 100mm

C面をモルタル金ごてで平坦に仕上げること。なお、周囲木枠天端から100mm

さがり しあげる

下がり仕上げること。

Dぶ しあげ Cめん しゅうせい かな

D部をきりつけごてで仕上げ、C面のきりつけごてあと（はね）の修正を金ごて

おこなう

で行うこと。

じつぎかだい ふくまれるぎのう ないよう

(6) 実技課題に含まれる技能の内容

さぎょう おこなうえ いか 1 3 りゅうい さぎょう

作業を行う上で以下の ~ に留意して作業すること。

じつぎかだい ふくまれるぎのう

① 実技課題に含まれる技能

かんたん すみだし

・簡単な墨出しができること。

いた てぎわ しょう

・こてとこて板を手際よく使用できること。

しょう したぬり うわぬり

・こてを使用して下塗り、上塗りができること。

すみだし てじゆん

墨出しの手順

いと かるこ 3かいまいて ひだりがわ はしら すみ うつばあい ひだりまき

・つば糸を軽子に2～3回巻いて（左側の柱などに墨を打つ場合は左巻

はりさき のこ かるこ きてん うえ さす

に）針先を5mm程度残し、軽子を基点の上に刺す。

すみ すみ わた かるくおさえひきのばし すてすみ あと いと

・墨さしで墨つぼのつぼ綿を軽く押さえ引き伸ばし、捨て墨をした後、糸を

いっぽう きてん

もう一方の基点にあてる。

いと うちめん たいしてちよっかく もちあげ すみ せんめい うつ

・つば糸を打ち面に対して直角に持ち上げ、墨が鮮明になるように打つ。

こうぐるい かくしゅこうぐ ようと りかい てきせつ しょう

工具類 各種工具の用途を理解し、適切に使用できること。

なかぬり せめんともるたる ぬりつ しょう

・中塗りごて：セメントモルタルを塗り付けるために使用する。

ざいりょう ねりあわせ ざいりょう いた うつつ しょう

・れんがごて：材料の練り合わせと材料をこて板に移すために使用する。

る。

いりすみ しあげ しょう

・きりつけごて：入隅の仕上げに使用する。